

平成26年10～12月期結果(確報)の概要

I 今期の概況

1 今期の個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I

① 今期の業況判断

今期（平成26年10～12月期）の業況判断D Iは (-)63.0 で、前期（平成26年7～9月期）(-65.3)に比べ、2.3 ポイントの改善。

② 来期の見通し

来期（平成27年1～3月期）の業況見通しD Iは (-)65.6 で、今期の業況判断 (-63.0) に比べ、2.6 ポイントの悪化の見通し。

図1 業況判断D Iの推移 — 調査産業計 —

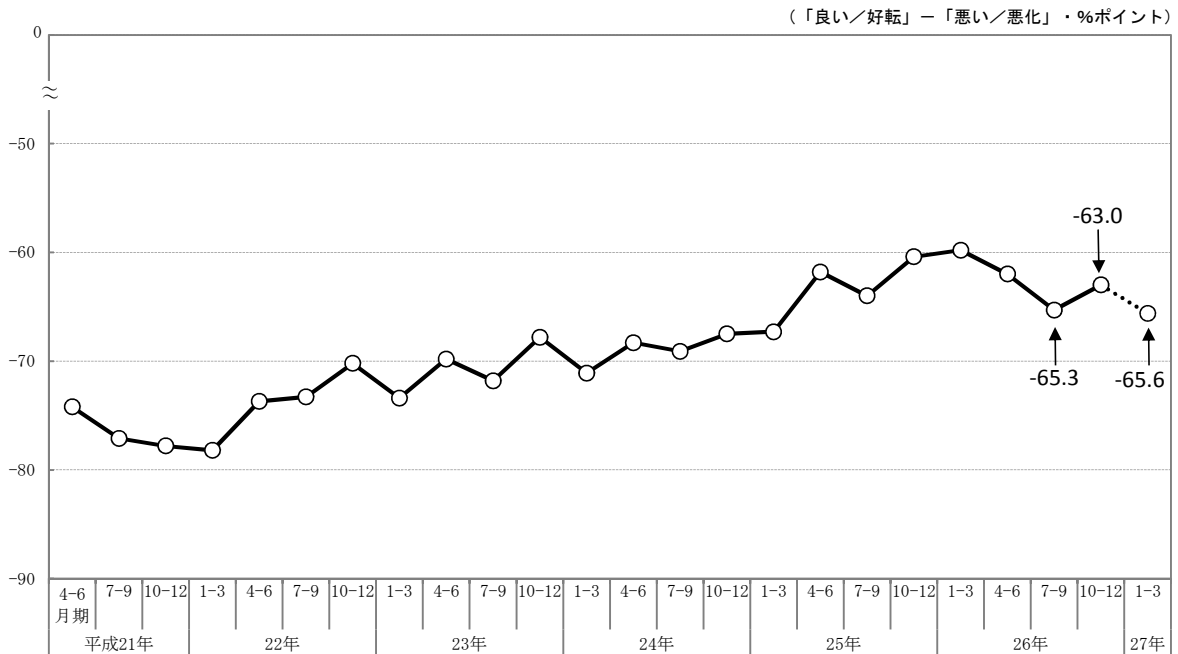


表1 業況判断の割合 — 調査産業計 —

	平成25年	26年				27年	
	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期 見通し	
今期の業況, 来期の業況 (%)							
良い/好転	4.1	4.3	3.7	2.9	4.0	1.9	
普通/不変	31.4	31.6	30.6	28.9	29.0	30.6	
悪い/悪化	64.5	64.1	65.7	68.2	67.0	67.5	
D I	-60.4	-59.8	-62.0	-65.3	-63.0	-65.6	
参考	日銀短観(大企業全産業計)	18	21	16	13	14	12
	中小企業景況調査(全産業計)	-25.0	-24.7	-27.6	-28.3	-28.1	-15.5

(注) 「中小企業景況調査」：(独)中小企業基盤整備機構作成

(注) 今期の調査票回収時期は、平成27年1月上旬から中旬までである。

2 今期の売上高及び営業利益

① 今期の1事業所当たりの売上高は、	
□「製造業」は	244万4000円で、前年同期に比べ、1.2%の減少
□「卸売業、小売業」は	438万4000円で、前年同期に比べ、0.2%の増加
□「宿泊業、飲食サービス業」は	215万円で、前年同期に比べ、4.4%の減少
□「サービス業」は	130万1000円で、前年同期に比べ、2.1%の増加
② 今期の1事業所当たりの営業利益は、	
□「製造業」は	65万8000円で、前年同期に比べ、2.7%の減少
□「卸売業、小売業」は	51万1000円で、前年同期に比べ、15.9%の増加
□「宿泊業、飲食サービス業」は	42万2000円で、前年同期に比べ、3.9%の増加
□「サービス業」は	48万円で、前年同期に比べ、7.1%の増加

※前年同期(平成25年10～12月期)

表2 産業別売上高及び営業利益

(1事業所当たり)

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
実数 (千円)	平成24年 10～12月期	2,682	765	4,431	435	2,189	390	1,291	463
	平成25年 1～3月期	2,086	563	3,948	368	2,058	383	1,232	427
	4～6月期	2,183	630	3,932	398	2,087	424	1,405	522
	7～9月期	2,119	651	3,969	446	2,158	433	1,274	437
	10～12月期	2,474	676	4,376	441	2,249	406	1,274	448
	平成26年 1～3月期	2,293	654	4,007	463	2,018	341	1,102	352
	4～6月期	2,131	613	3,981	431	2,154	402	1,210	456
	7～9月期	2,314	626	4,146	370	2,168	420	1,230	433
	10～12月期	2,444	658	4,384	511	2,150	422	1,301	480
前年同期比 (%)	平成24年 10～12月期	13.5	13.5	-1.0	-2.7	3.6	-2.5	-0.8	-8.3
	平成25年 1～3月期	-16.1	-11.1	-0.2	-4.4	4.8	5.5	11.8	7.8
	4～6月期	-12.5	4.0	-8.1	-4.1	0.0	21.8	16.7	16.8
	7～9月期	-9.1	6.4	-5.5	3.0	-0.3	22.3	8.8	5.0
	10～12月期	-7.8	-11.6	-1.2	1.4	2.7	4.1	-1.3	-3.2
	平成26年 1～3月期	9.9	16.2	1.5	25.8	-1.9	-11.0	-10.6	-17.6
	4～6月期	-2.4	-2.7	1.2	8.3	3.2	-5.2	-13.9	-12.6
	7～9月期	9.2	-3.8	4.5	-17.0	0.5	-3.0	-3.5	-0.9
	10～12月期	-1.2	-2.7	0.2	15.9	-4.4	3.9	2.1	7.1

3 今期の設備投資額

① 今期の1事業所当たりの設備投資額は、	
□「製造業」は	7万8000円で、前年同期(12万2000円)に比べ、減少
□「卸売業、小売業」は	8万9000円で、前年同期(8万9000円)と同額
□「宿泊業、飲食サービス業」は	11万8000円で、前年同期(8万9000円)に比べ、増加
□「サービス業」は	4万3000円で、前年同期(4万4000円)に比べ、減少
② 今期の1事業所当たりの設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は、	
□「製造業」は	3.2%で、前年同期(4.9%)に比べ、1.7ポイントの低下
□「卸売業、小売業」は	2.0%で、前年同期(2.0%)と同率
□「宿泊業、飲食サービス業」は	5.5%で、前年同期(4.0%)に比べ、1.5ポイントの上昇
□「サービス業」は	3.3%で、前年同期(3.5%)に比べ、0.2ポイントの低下

※前年同期(平成25年10～12月期)

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

(1事業所当たり)

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)
平成24年 10～12月期		131	4.9	60	1.4	64	2.9	74	5.7
平成25年 1～3月期		65	3.1	100	2.5	64	3.1	125	10.1
4～6月期		56	2.6	118	3.0	59	2.8	63	4.5
7～9月期		139	6.6	81	2.0	78	3.6	45	3.5
10～12月期		122	4.9	89	2.0	89	4.0	44	3.5
平成26年 1～3月期		116	5.1	83	2.1	87	4.3	73	6.6
4～6月期		85	4.0	68	1.7	45	2.1	75	6.2
7～9月期		104	4.5	85	2.1	77	3.6	40	3.3
10～12月期		78	3.2	89	2.0	118	5.5	43	3.3

Ⅱ 業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成26年10～12月期）の業況判断D Iは（-）63.0 で、前期（平成26年7～9月期）（-65.3）に比べ、2.3ポイント改善した。

イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）45.1 で、前期（-51.8）に比べ、6.7ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成25年10～12月期）と比較した業況判断D Iは（-）56.1 で、前期（-55.3）に比べ、0.8ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年1～3月期）の業況見通しD Iは（-）65.6 で、今期の業況判断（-63.0）に比べ、2.6ポイントの悪化の見通しとなっている。

図2 業況判断D Iの推移 —調査産業計—

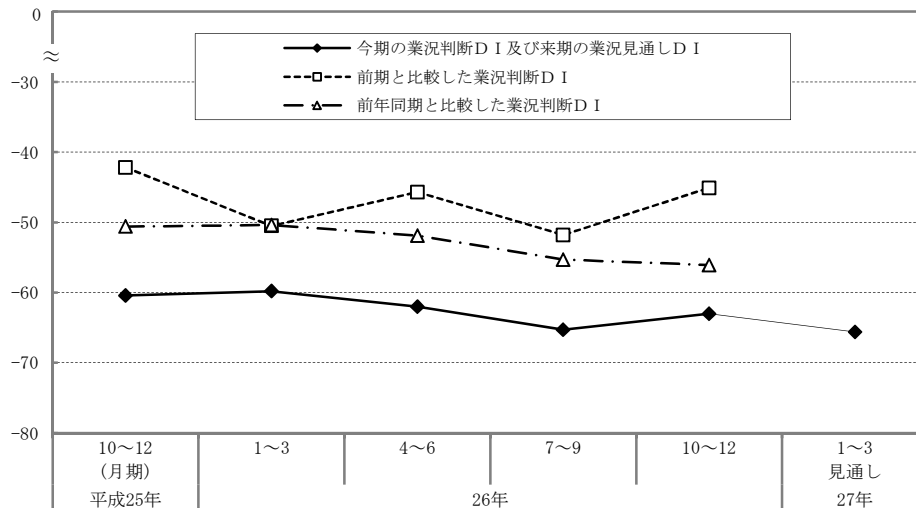
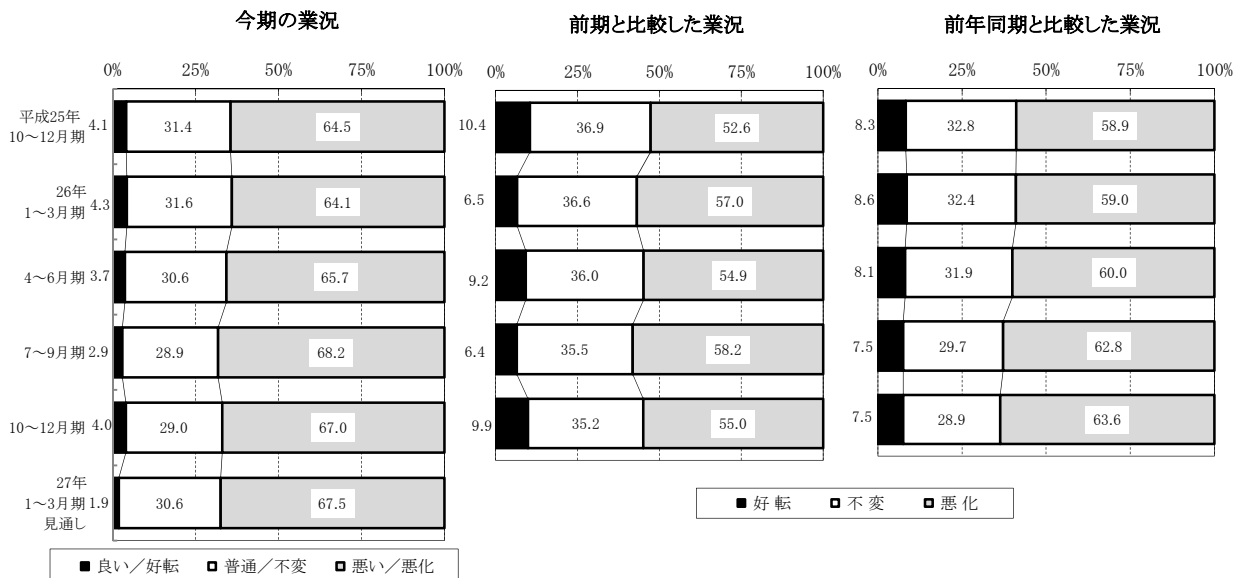


図3 業況判断の割合 —調査産業計—



(2) 売上の状況

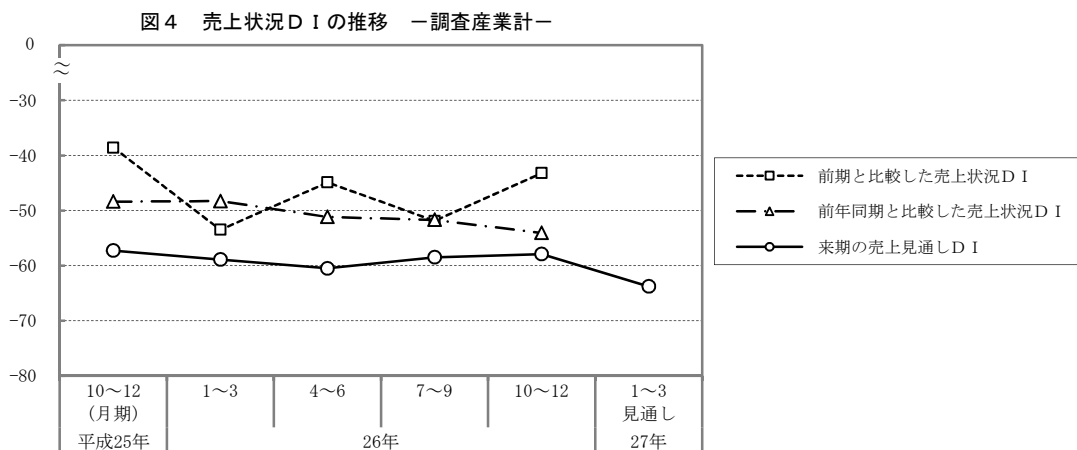
① 今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況DIは (-)43.2 で、前期 (-51.9) に比べ、8.7 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは (-)54.1 で、前期 (-51.7) に比べ、2.4 ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは (-)63.8 で、前期における今期の売上見通し (-57.9) に比べ、5.9 ポイントの悪化の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

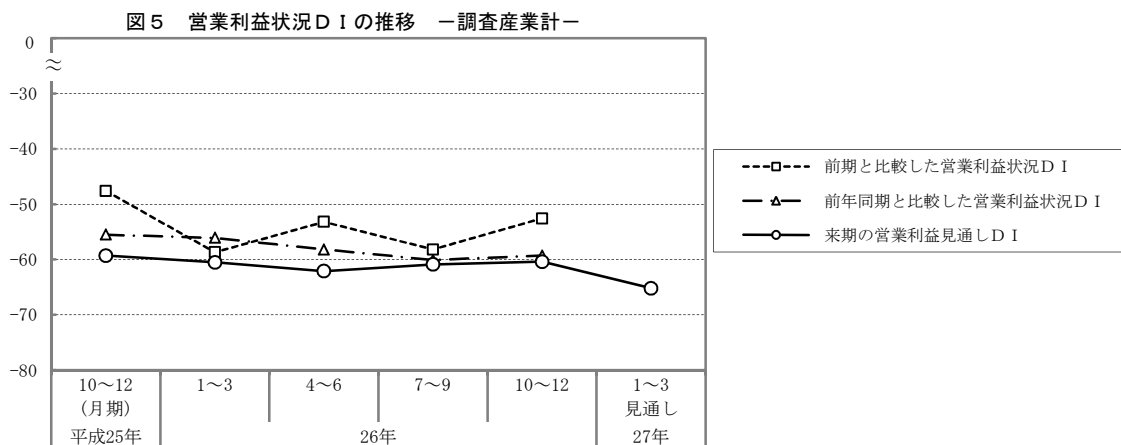
① 今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況DIは (-)52.6 で、前期 (-58.2) に比べ、5.6 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは (-)59.3 で、前期 (-60.1) に比べ、0.8 ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

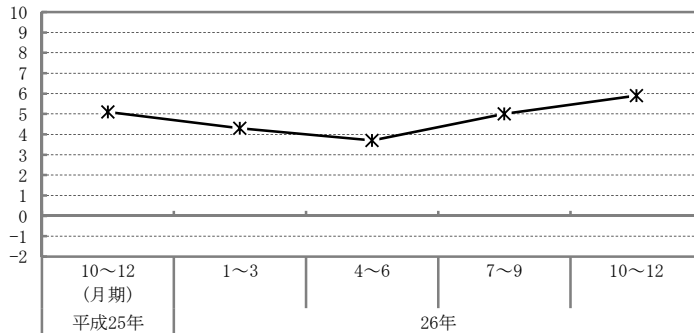
来期の営業利益見通しDIは (-)65.2 で、前期における今期の営業利益見通し (-60.4) に比べ、4.8ポイントの悪化の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)5.9 で、前期 (+5.0) に比べ、0.9ポイント「過剰」が拡大した。

図6 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -調査産業計-

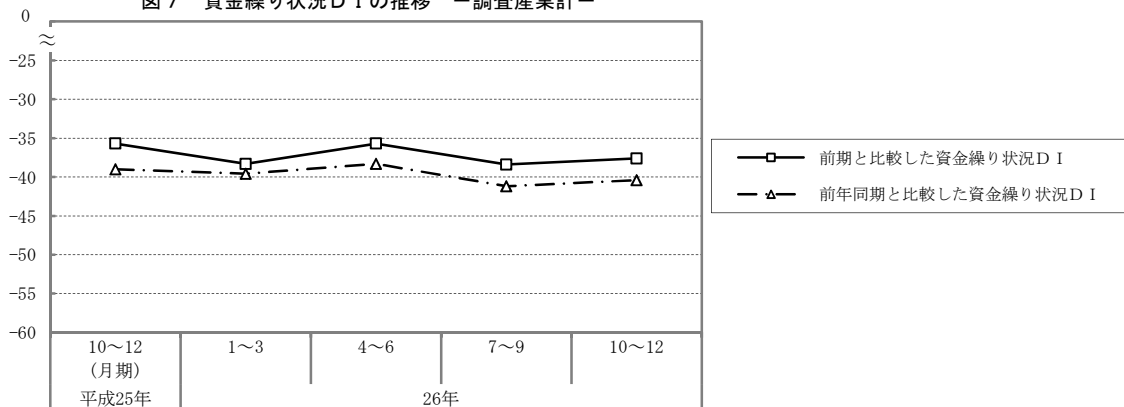


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)37.6 で、前期 (-38.4) に比べ、0.8ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)40.4 で、前期 (-41.2) に比べ、0.8ポイント改善した。

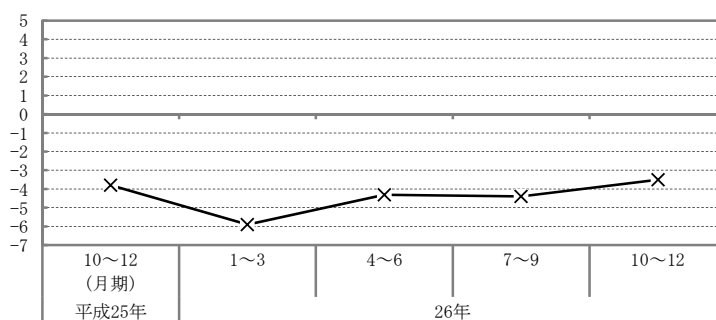
図7 資金繰り状況DIの推移 -調査産業計-



(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)3.5 で、前期 (-4.4) に比べ、0.9ポイント「不足」が縮小した。

図8 雇用状況DIの推移 -調査産業計-



2 製造業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成26年10～12月期）の業況判断DIは(-)44.2で、前期（平成26年7～9月期）(-51.7)に比べ、7.5ポイント改善した。

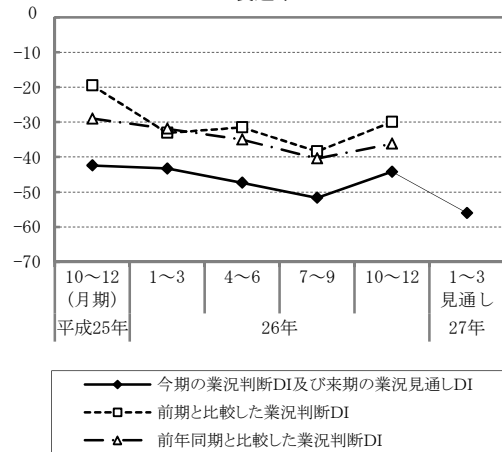
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)30.0で、前期(-38.4)に比べ、8.4ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成25年10～12月期）と比較した業況判断DIは(-)36.2で、前期(-40.4)に比べ、4.2ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年1～3月期）の業況見通しDIは(-)56.0で、今期の業況判断(-44.2)に比べ、11.8ポイントの悪化の見通しとなっている。

図9 業況判断DIの推移
—製造業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

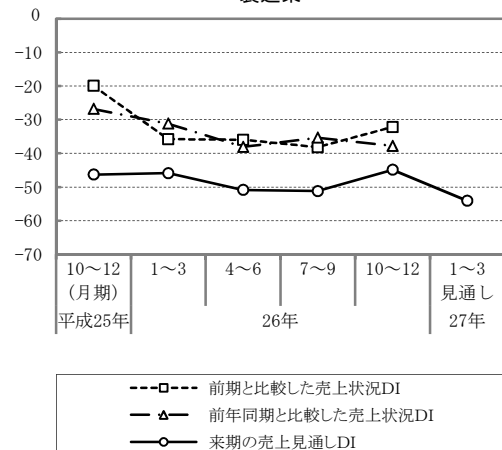
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)32.2で、前期(-38.2)に比べ、6.0ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)37.8で、前期(-35.4)に比べ、2.4ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)54.1で、前期における今期の売上見通し(-44.9)に比べ、9.2ポイントの悪化の見通しとなっている。

図10 売上状況DIの推移
—製造業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

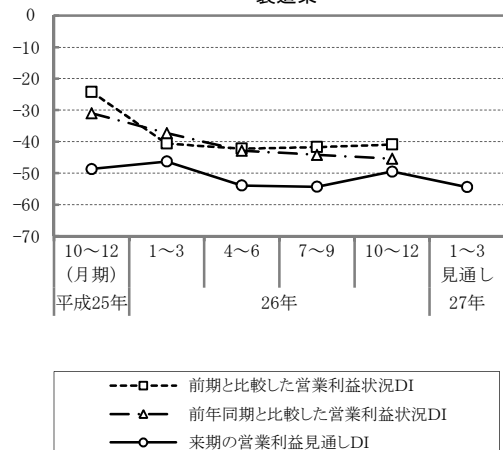
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)40.9で、前期(-41.7)に比べ、0.8ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)45.4で、前期(-44.2)に比べ、1.2ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)54.4で、前期における今期の営業利益見通し(-49.5)に比べ、4.9ポイントの悪化の見通しとなっている。

図11 営業利益状況DIの推移
—製造業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)4.4 で、前期 (+3.3) に比べ、1.1 ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)28.9 で、前期 (-29.9) に比べ、1.0 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)32.1 で、前期 (-34.5) に比べ、2.4 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)3.3 で、前期 (-3.1) に比べ、0.2 ポイント「不足」が拡大した。

図12 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -製造業-

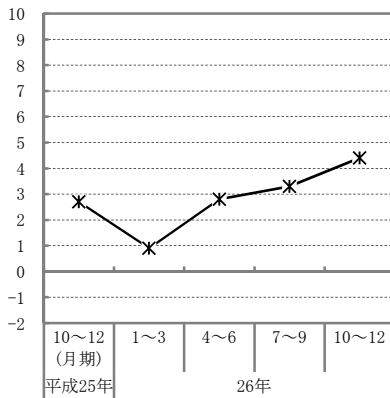


図13 資金繰り状況DIの推移 -製造業-

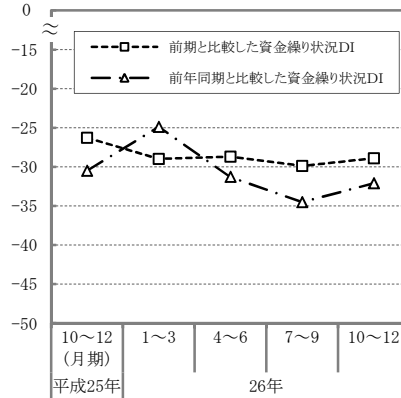
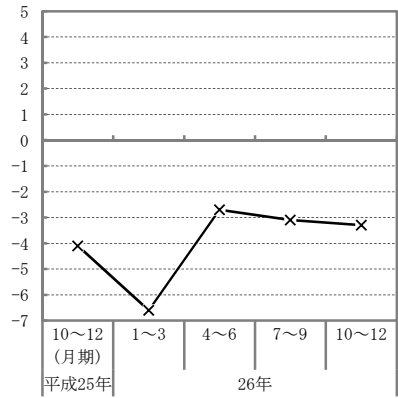


図14 雇用状況DIの推移 -製造業-



3 卸売業、小売業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成26年10~12月期）の業況判断DIは (-)69.6 で、前期（平成26年7~9月期） (-71.5) に比べ、1.9 ポイント改善した。

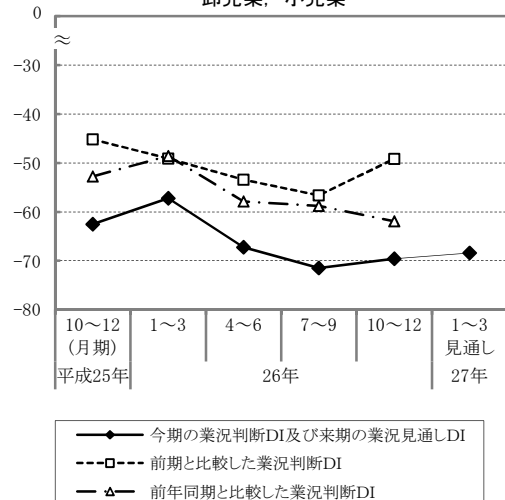
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)49.2 で、前期 (-56.6) に比べ、7.4 ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成25年10~12月期）と比較した業況判断DIは (-)61.9 で、前期 (-58.8) に比べ、3.1 ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年1~3月期）の業況見通しDIは (-)68.4 で、今期の業況判断 (-69.6) に比べ、1.2 ポイントの改善の見通しとなっている。

図15 業況判断DIの推移 -卸売業、小売業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

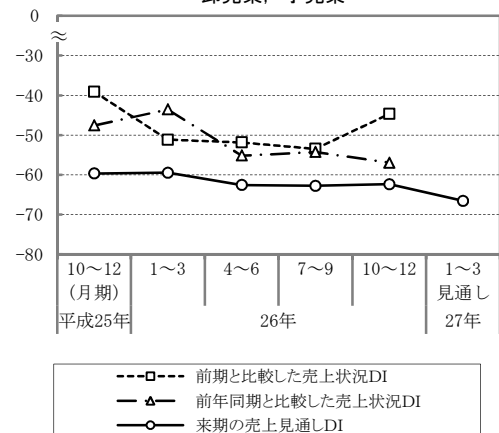
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)44.7で、前期(-53.5)に比べ、8.8ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)57.0で、前期(-54.3)に比べ、2.7ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)66.6で、前期における今期の売上見通し(-62.4)に比べ、4.2ポイントの悪化の見通しとなっている。

図16 売上状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

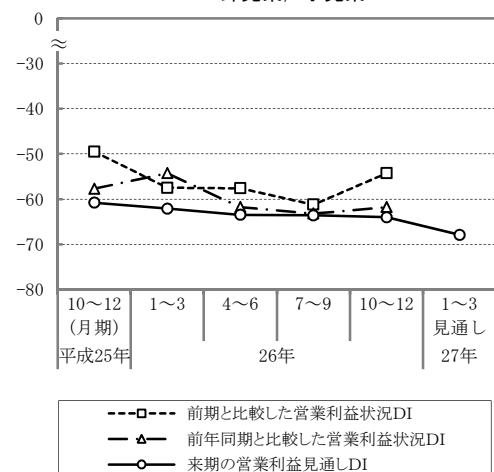
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)54.3で、前期(-61.2)に比べ、6.9ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)61.8で、前期(-63.2)に比べ、1.4ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)67.9で、前期における今期の営業利益見通し(-64.0)に比べ、3.9ポイントの悪化の見通しとなっている。

図17 営業利益状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)10.2で、前期(+8.3)に比べ、1.9ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)38.7で、前期(-41.8)に比べ、3.1ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)42.0で、前期(-45.0)に比べ、3.0ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)3.1で、前期(-3.9)に比べ、0.8ポイント「不足」が縮小した。

図18 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -卸売業、小売業-

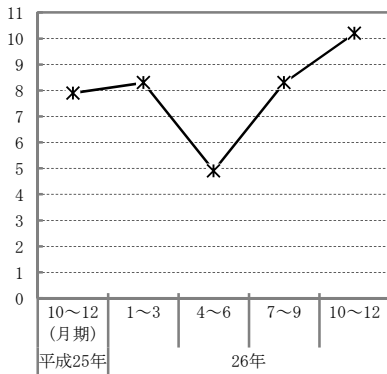


図19 資金繰り状況DIの推移 -卸売業、小売業-

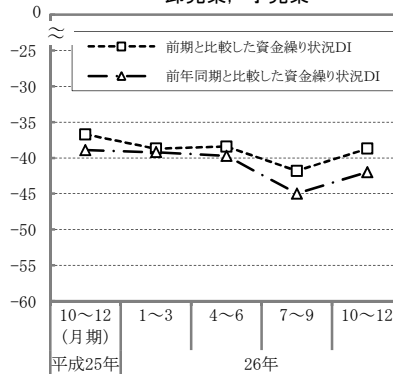
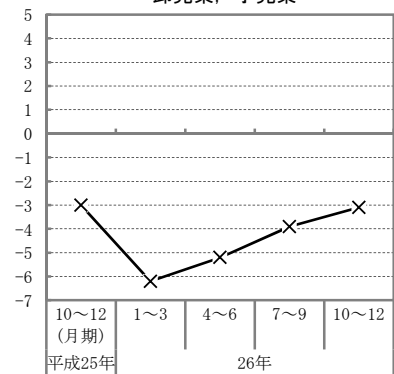


図20 雇用状況DIの推移 -卸売業、小売業-



4 宿泊業、飲食サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成26年10~12月期）の業況判断DIは(-)58.4で、前期（平成26年7~9月期）(-58.1)に比べ、0.3ポイント悪化した。

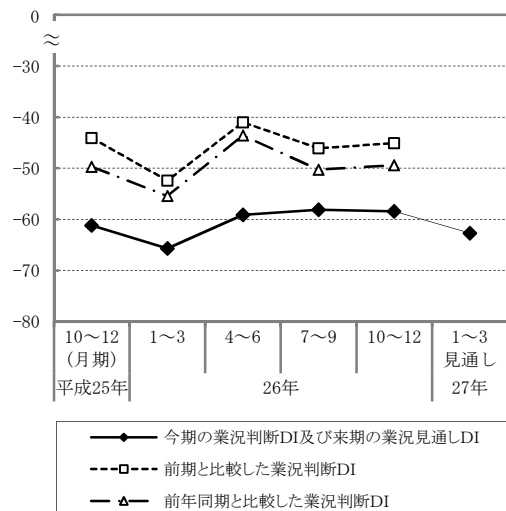
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)45.1で、前期(-46.1)に比べ、1.0ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成25年10~12月期）と比較した業況判断DIは(-)49.4で、前期(-50.3)に比べ、0.9ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年1~3月期）の業況見通しDIは(-)62.7で、今期の業況判断(-58.4)に比べ、4.3ポイントの悪化の見通しとなっている。

図21 業況判断DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

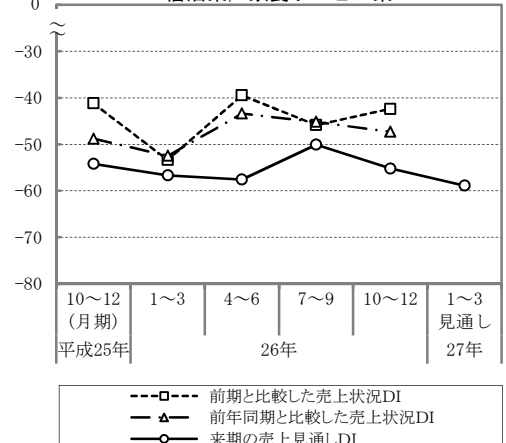
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)42.4で、前期(-45.9)に比べ、3.5ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)47.3で、前期(-45.2)に比べ、2.1ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)58.9で、前期における今期の売上見通し(-55.2)に比べ、3.7ポイントの悪化の見通しとなっている。

図22 売上状況DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

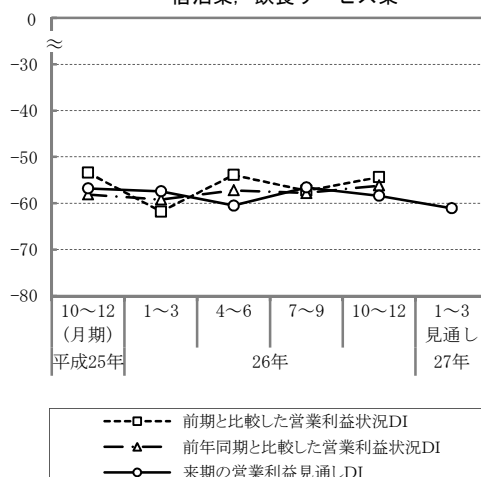
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)54.4で、前期(-57.3)に比べ、2.9ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)56.2で、前期(-57.8)に比べ、1.6ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)61.1で、前期における今期の営業利益見通し(-58.4)に比べ、2.7ポイントの悪化の見通しとなっている。

図23 営業利益状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)2.0で、前期(+1.5)に比べ、0.5ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)41.8で、前期(-41.0)に比べ、0.8ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)43.3で、前期(-42.4)に比べ、0.9ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)6.6で、前期(-7.9)に比べ、1.3ポイント「不足」が縮小した。

図24 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

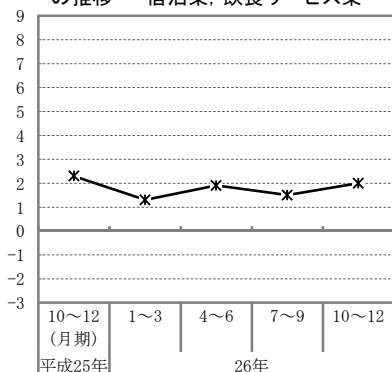


図25 資金繰り状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

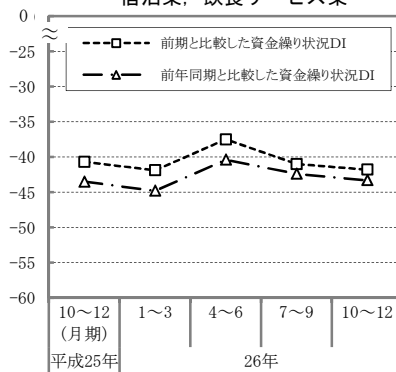
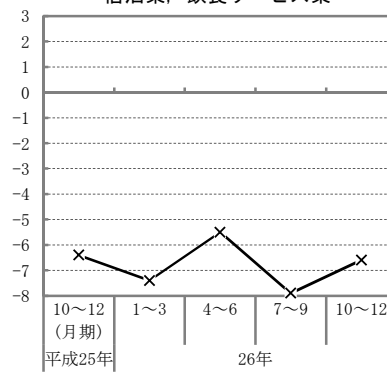


図26 雇用状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



5 サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成26年10～12月期）の業況判断DIは(-)65.5で、前期（平成26年7～9月期）(-68.6)に比べ、3.1ポイント改善した。

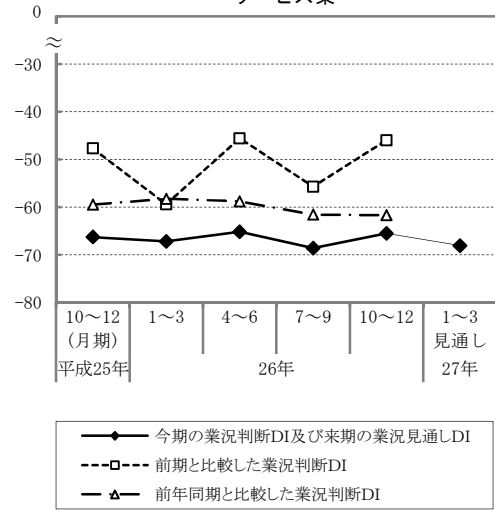
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)46.0で、前期(-55.7)に比べ、9.7ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成25年10～12月期）と比較した業況判断DIは(-)61.7で、前期(-61.6)に比べ、0.1ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年1～3月期）の業況見通しDIは(-)68.1で、今期の業況判断(-65.5)に比べ、2.6ポイントの悪化の見通しとなっている。

図27 業況判断DIの推移
—サービス業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

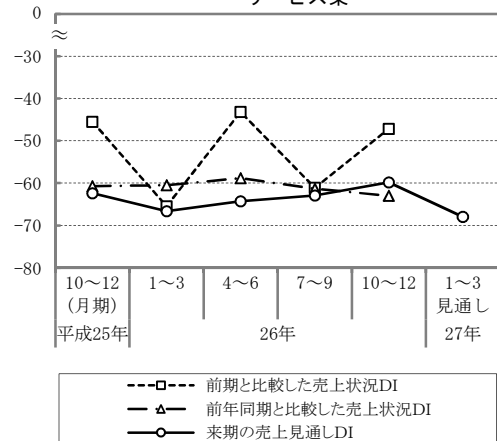
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)47.2で、前期(-61.1)に比べ、13.9ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)63.0で、前期(-61.3)に比べ、1.7ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)68.0で、前期における今期の売上見通し(-59.8)に比べ、8.2ポイントの悪化の見通しとなっている。

図28 売上状況DIの推移
—サービス業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

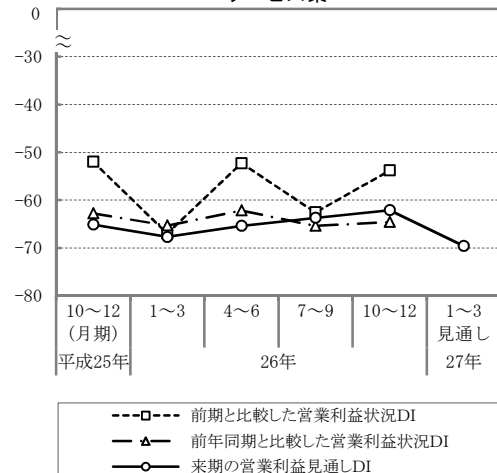
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)53.8で、前期(-62.6)に比べ、8.8ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)64.6で、前期(-65.4)に比べ、0.8ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)69.6で、前期における今期の営業利益見通し(-62.1)に比べ、7.5ポイントの悪化の見通しとなっている。

図29 営業利益状況DIの推移
—サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+) 2.8 で、前期(+ 3.8)に比べ、 1.0 ポイント「過剰」が縮小した。

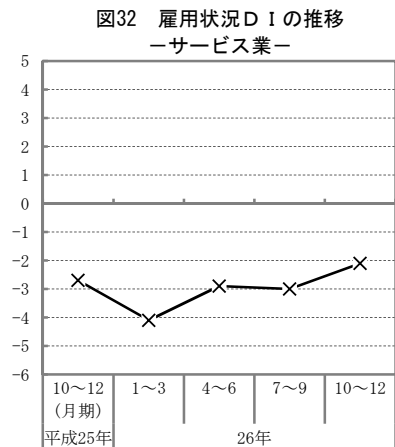
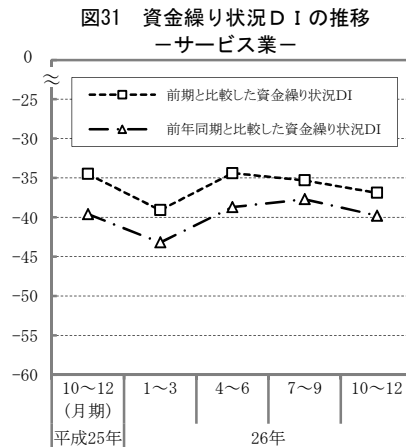
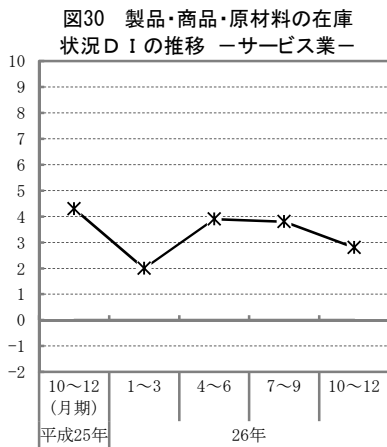
(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-) 36.9 で、前期(- 35.3)に比べ、 1.6 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-) 39.8 で、前期(- 37.7)に比べ、 2.1 ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-) 2.1 で、前期(- 3.0)に比べ、 0.9 ポイント「不足」が縮小した。



Ⅲ 営業収支

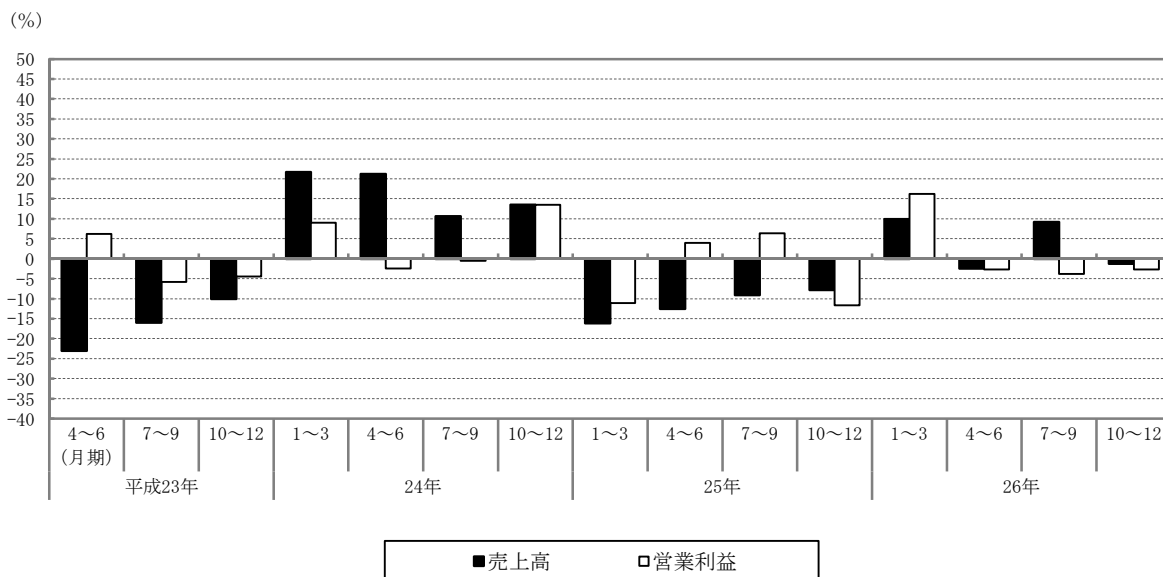
1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は244万4000円で、これに対する費用は売上原価が84万円、営業費が94万6000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は65万8000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)1.2%で、2期ぶりに減少した。また、営業利益は(-)2.7%で、3期連続で減少した。

図33 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 - 製造業 -

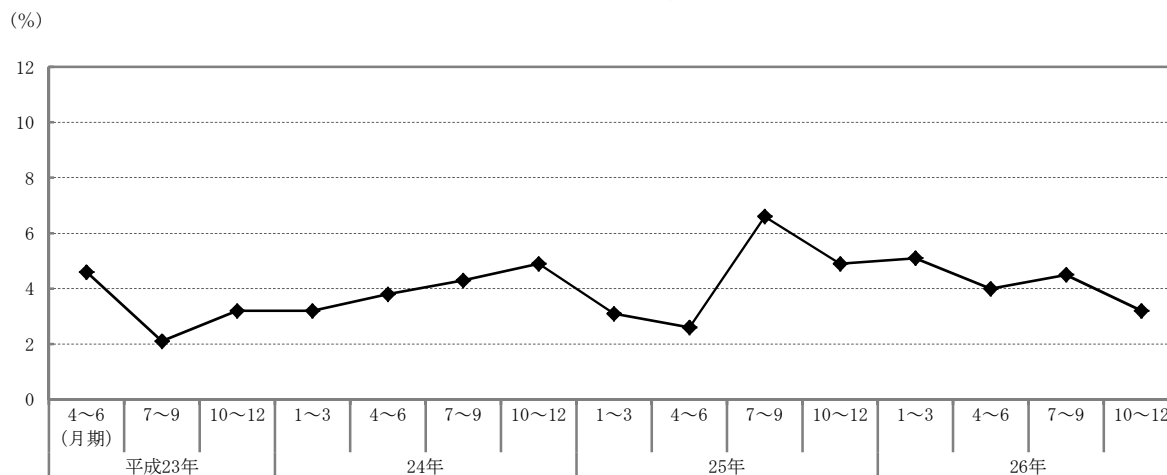


(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は7万8000円で、前年同期(12万2000円)を下回った。

また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は3.2%で、前年同期(4.9%)を1.7ポイント下回った。

図34 設備投資率の推移 - 製造業 -



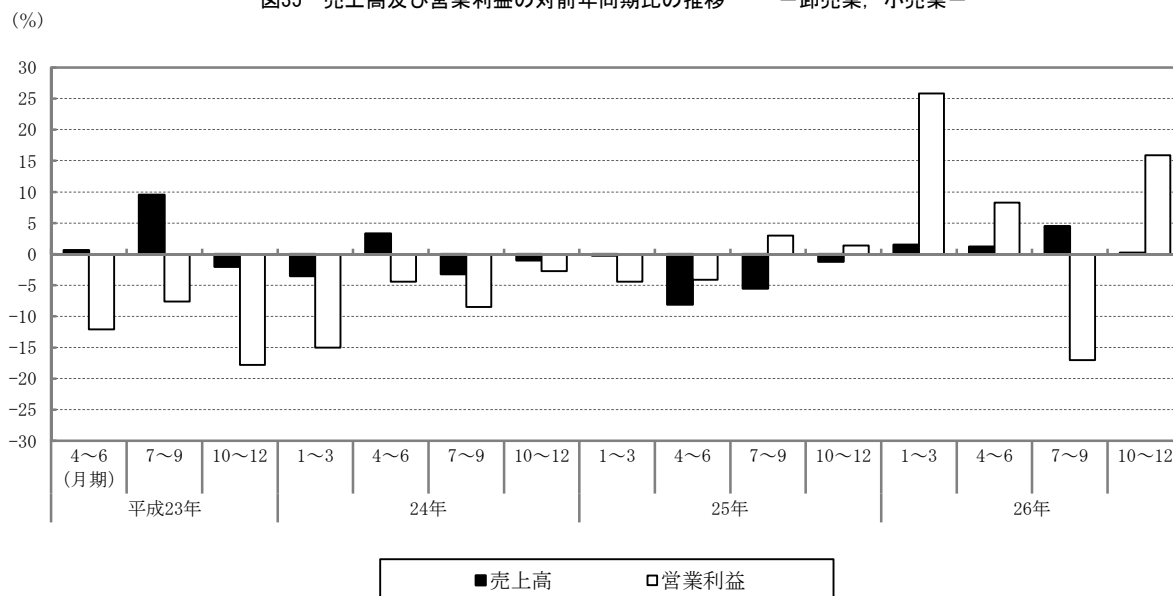
2 卸売業、小売業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は438万4000円で、これに対する費用は売上原価が294万1000円、営業費が93万3000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は51万1000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 0.2% で、4期連続で増加した。また、営業利益は(+) 15.9% で、2期ぶりに増加した。

図35 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー卸売業、小売業ー

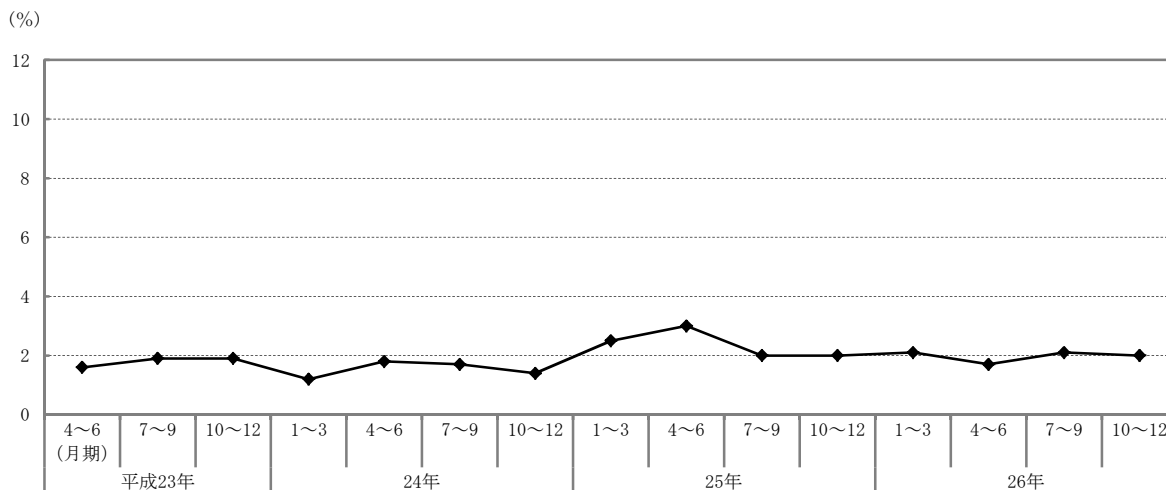


(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は8万9000円で、前年同期(8万9000円)と同額となった。

また、設備投資率は 2.0% で、前年同期(2.0%)と同率となった。

図36 設備投資率の推移 ー卸売業、小売業ー



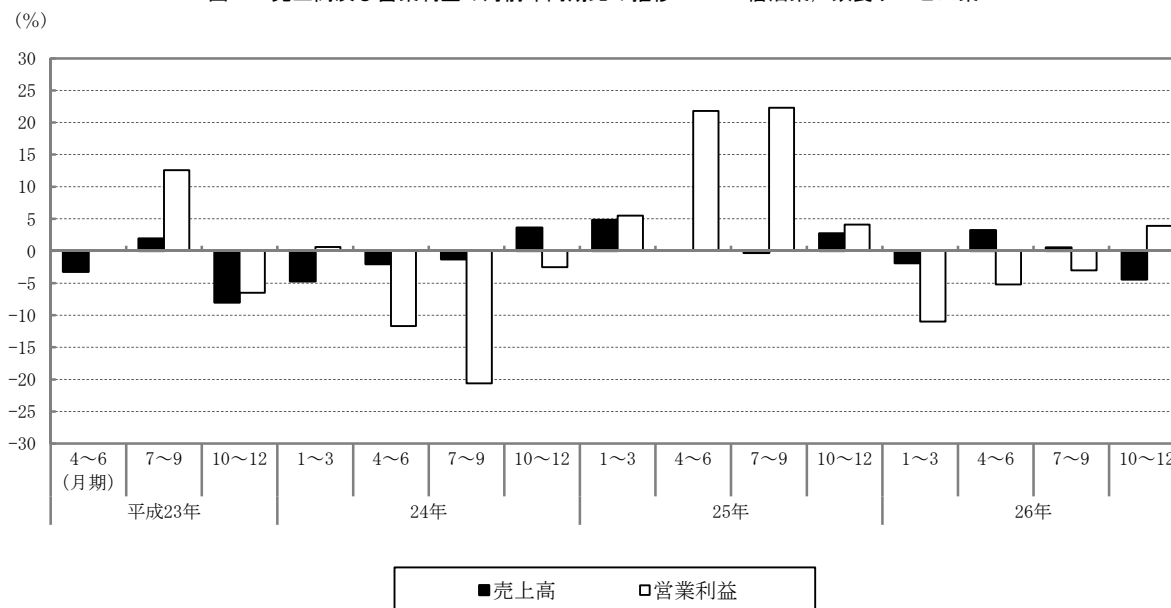
3 宿泊業，飲食サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は215万円で、これに対する費用は売上原価が88万8000円、営業費が84万円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は42万2000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)4.4%で、3期ぶりに減少した。また、営業利益は(+)3.9%で、4期ぶりに増加した。

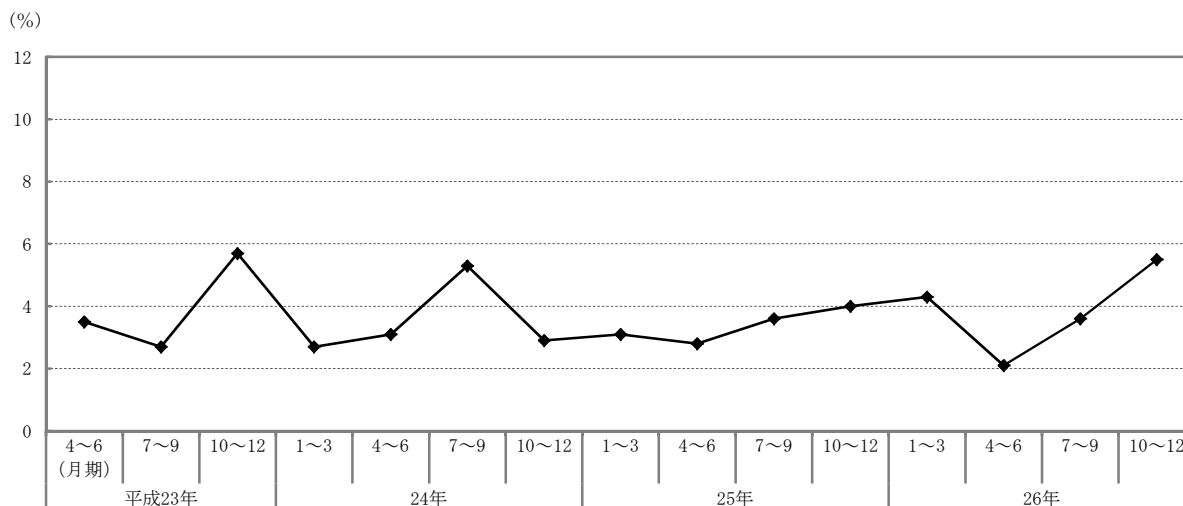
図37 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は11万8000円で、前年同期(8万9000円)を上回った。また、設備投資率は5.5%で、前年同期(4.0%)を1.5ポイント上回った。

図38 設備投資率の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



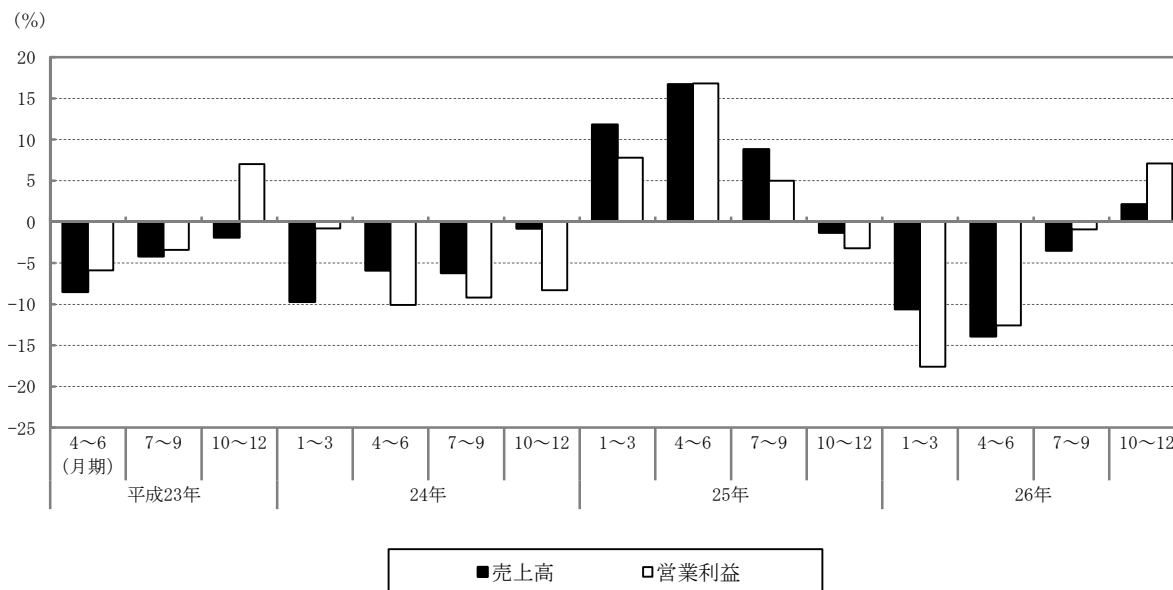
4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は130万1000円で、これに対する費用は売上原価が20万9000円、営業費が61万3000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は48万円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 2.1% で、5期ぶりに増加した。また、営業利益は(+) 7.1% で、5期ぶりに増加した。

図39 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 —サービス業—



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は4万3000円で、前年同期(4万4000円)を下回った。また、設備投資率は 3.3% で、前年同期(3.5%)を 0.2 ポイント下回った。

図40 設備投資率の推移 —サービス業—

